

イーハトーブ チャレンジキャンプ 報告書

自然体験

×

社会人基礎力

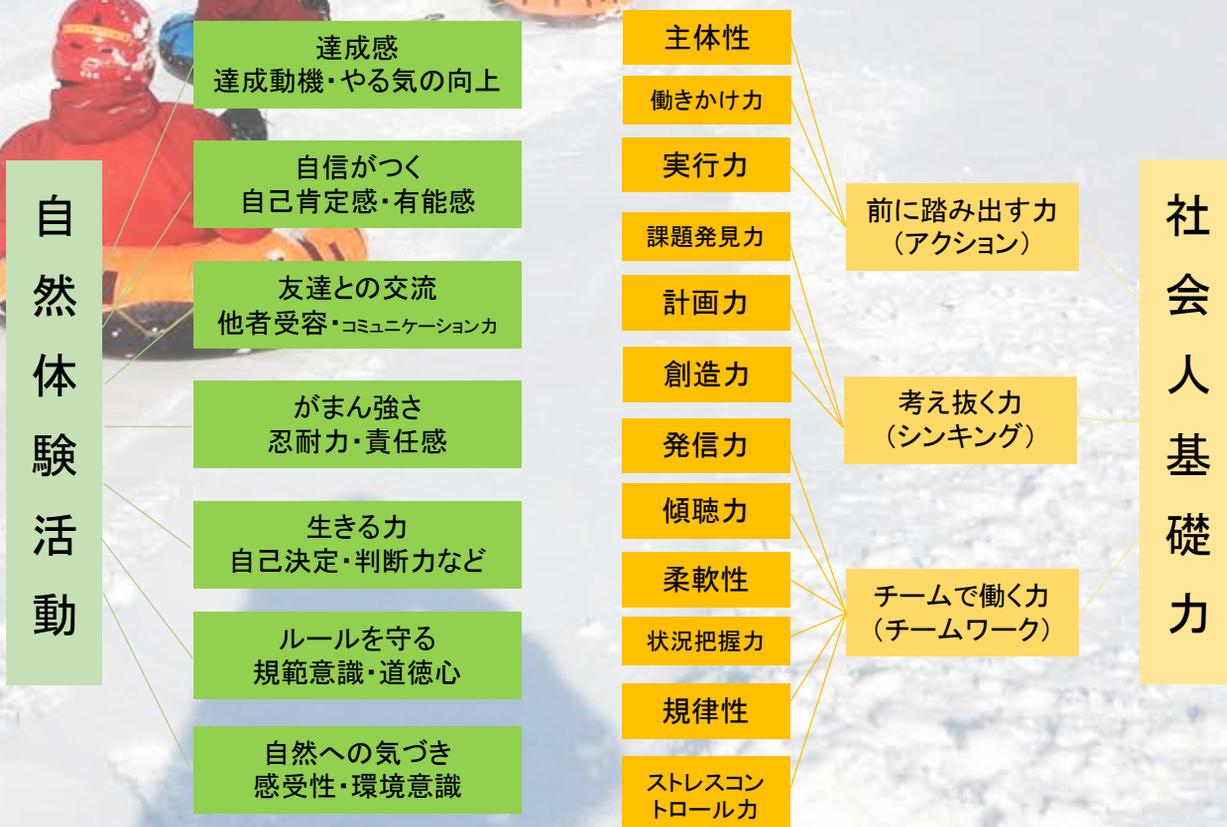
国立岩手山青少年交流の家

事業のねらい

岩手山青少年交流の家ではこれまで、ボランティア養成事業やボランティアブラッシュアップ研修、ボランティアによる自主企画の立案などをおして、青少年教育の指導者を育てるだけでなく、今後社会人として活躍できる人材の育成に努めてきた。

本事業では経済産業省が提唱する社会人基礎力に着目し、それらの能力が自然体験活動から得られる効果と共通点が多かったことから、これから社会人となる大学生を対象に、大学生にとって自然体験活動が自己の社会人基礎力の向上にどのような効果があるかを検証することをねらいとした。

自然体験活動で得られる効果と社会人基礎力の関係



活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時	
2/21 (水)									受付 開会行事・OR	基礎力診断 社会人	アクション① ～レクリエーション～ スノーモービルラフティング 迷子探しゲーム		夕食休憩	シンキング① ～グループワーク～ 「自然体験活動の魅力伝えるポスターを作ろう」		ふりかえり	入浴	就寝準備	就寝
2/22 (木)			起床・身支度	朝食準備	アクション② ～冬の鞍掛山登山～						夕食休憩	シンキング② ～合意形成～ 「どんな雪像を作るか考えよう」		ふりかえり	入浴	就寝準備	就寝		
2/23 (金)			起床・身支度	朝食準備	アクション④・チームワーク ～雪像づくり～				退所点検	夕食	ふりかえり	閉会行事							

運営のポイント

- ・最初に社会人基礎力調査を行い、自己分析の時間を長めに取った。
- ・社会人基礎力調査のデータから、特徴が似ている人同士や違う人同士などその都度グループを変えて各アクティビティを行った。
- ・グループワークを多くし、チームの中での自分を意識させた。
- ・毎日のふりかえりも社会人基礎力を意識した内容にし、他者と比較して自己を分析する設問を取り入れた。

活動の様子



迷子さがしゲーム



ポスター作り



鞍掛山登山



鞍掛山登山



自然物で創作活動



雪像作り(かまくら)

社会人基礎力調査

社会人基礎力セルフアセスメント

日本マンパワー

「社会人基礎力」とは

経済産業省が推進し、「社会人基礎力に関する研究会」が整理した、あらゆる社会人に必要とされる基礎能力です。

「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力とその下位能力としての12の能力要素から構成されています。

前に踏み出す力
(アクション)

考え抜く力
(シンキング)

チームで働く力
(チームワーク)

? 何のために

- 社会人基礎力すなわち企業が要求する具体的な能力について自己評価し、その作業を通じて、自分自身が持っている能力についての認識・イメージを整えます。
- 「それぞれの能力は具体的にどのような力」「自分自身はどのような能力をどの程度身につけているか」を確認するプロセスを通して、今後の自己能力強化のポイントや行動テーマを明確化します。

※このアセスメントは、能力そのものを測定・判定するものではありません。皆様ご自身の社会人基礎力についての理解を深め、行動につなげるための視点やきっかけを与えるためのツールとしてご活用ください。

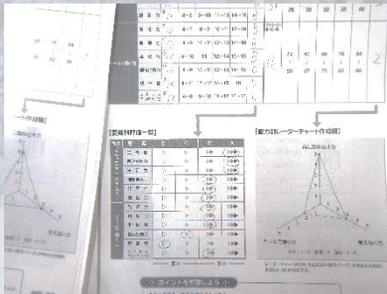
目的

? 誰が

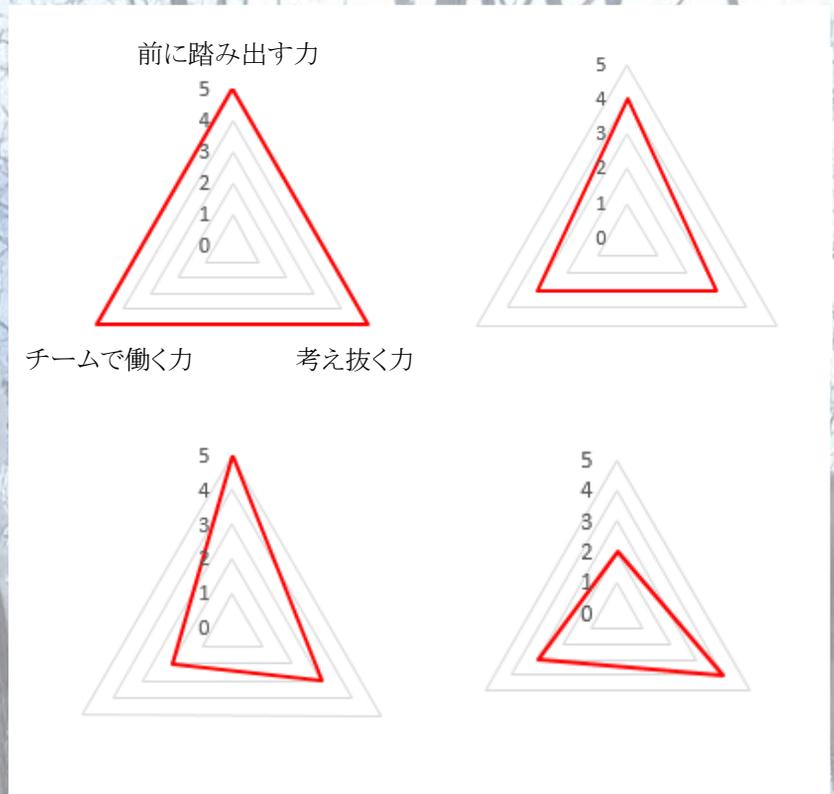
高校2～20代前半の職入、若手社員の方

対象者

株式会社日本マンパワー
社会人基礎力セルフアセスメント



実際の調査用紙



社会人基礎力調査(自己分析)をレーダーチャートにまとめると、参加者10名のうち、大きめの正三角形や二等辺三角形になったタイプが多く5名、少し小さめの二等辺三角形が1名、縦長の三角形のタイプが2名、横長の三角形のタイプが2名という分類で分けることにした。三角形が小さく自己肯定感が低いと感じる参加者も2名(縦長タイプに1名、横長タイプに1名)いた。

社会人基礎力調査の感想 (参加者)

- ・今の自分について知ることができた。レベルアップする上で今の自分について知ることは大切なことだと思った。
- ・最初の調査で自分に足りていないところを意識して3日間過ごし、自分のプラス面を大切にしたり新しい自分を発見したりすることができた。
- ・客観的に自分を見つめ直すことで、友達との違いに気付き、そこから刺激を受けることができました。
- ・今まで気付かないふりをしていたが、Tさん、Hさんと自分の傾向が似ているということが心に残った。

自然体験（鞍掛山登山）

社会人基礎力については、調査を実施することで、自己を知り、日常生活の中でそれらを意識して生活したり、学校等でディスカッションやグループワークをしたりすることでも向上していくものとする。

自然体験活動が社会人基礎力の向上にどれほどの影響を与えるかを検証するにあたり、今回の自然体験活動では、参加者が初めて体験する活動で、心が解放され動かされる、感動が生まれやすい環境を作ることに留意した。

特に3日間のメインプログラムであった鞍掛山登山では、外部指導員の大友晃氏に依頼し、通常の雪山登山のみではなく、新雪をラッセルして進んだり、急斜面を登ったり、滑り降りたり、シルバコンパスを用いて登山道ではないルートで下山したりする体験を行い、6時間たっぷり雪山を満喫する時間とした。

参加者の感想（鞍掛山登山）

- ・スノーシューを履いて急斜面を下るのは最初ものすごく不安だったけど、仲間と一緒にだったからチャレンジして成功することができ、とても楽しかった。
- ・体は疲れたけど、気持ちはずっと元気でした！とてもとてもとてもとても楽しすぎました！
- ・普段は人より前に立ったり、遊びの中で演じたりすることは得意ではありませんが、今日は積極的に参加でき、そういうことが普通にできていた。
- ・心から笑っていたように思う。達成感と楽しさがMAXでした。
- ・頂上からの景色と頂上で食べたラーメンの味が忘れられません。

ふりかえりシートからの分析

1日の最後にふりかえりシート(7ページ参照)を用いてその日の自分の社会人基礎力を自己評価する時間を設けていたが、鞍掛山登山を行った2日目は、ほとんどの参加者の自己評価が上昇した。参加者が初日の社会人基礎力診断の結果を意識して活動していたからである場合も考えられるため、初日の自己評価が低かった項目が上昇したという場合を除いた。それでも、表1のとおり、多くの人の上昇していることがわかる。

参加者の感想からも読み取れるように、自然体験活動の開放感から、自分に素直に行動することができ、達成感から自分の気持ちの充実を感じ、自己肯定感も向上したため、ここまで上昇項目が増えたのではないかと考えられる。

表1	2日目に自己評価が上昇した人数	初日の調査で他項目より低かった項目の上昇を除いた人数
主体性	5名	3名
働きかけ力	2名	1名
実行力	3名	3名
課題発見力	4名	3名
計画力	5名	2名
創造力	5名	4名
発信力	0名	0名
傾聴力	2名	2名
柔軟性	5名	4名
状況把握力	6名	6名
規律性	6名	3名
ストレスコントロール力	0名	0名

グループワーク

社会人基礎力では、チームで働く力が6項目あり、半分のウェイトを占めている。そこで、「自然体験活動をととしたチームビルディングで、社会人基礎力の向上を図る」ためグループワークを意図的に多く取り入れた。

迷子探しゲーム（1日目）



2グループに分けて、どちらが先に迷子を見つけられるかというゲームを行なった。活動をしながらか夜のコマで使用する写真を撮ることも同時進行させたため、1つのグループは探すことよりも写真を撮ることに重点が置かれてしまう状況が起こった。そのことに対して、規律性を重視するメンバーのふりかえりでは、もっとまじめに探さなくてはならないのに周りの雰囲気流されてしまったことへの反省があった。また、その班のメンバーのふりかえりに規律性への反省が多かったことから、お互いを意識して行動していたことが読み取れる。

「自然体験活動の魅力を伝える」ポスター作り（1日目）



3グループに分けて行った。参加者のふりかえりから、「似ている傾向のメンバーと一緒に活動したときはすごく楽しかった反面、アイデアが浮かばない。その逆だと相手の気持ちを考えるなど繊細になる分、自分にはない発想や能力に気付かされることがあった。」という感想や「違うタイプとのグループでポスター作りが予想以上にうまくいかなかったが、グループのメンバー内に1人1人との会話力だったりまとめる力が強い人がいてすごいと思った。」といった感想があった。3グループのポスターは職員で投票を行い、最終日に優秀賞を決めて表彰した。

「自立する最強の人型二足歩行ロボット」作り（2日目）

3グループに分けて自然物を使った創作活動を行った。活動の最後に、自然体験活動は正解がなく、何をもって最強かも自由なところがいいところだという話と、作品についていろいろな人から「イイネ」と言ってもらえることで自己肯定感も増すという話を加えた。参加者のふりかえりから、「TさんもYさんも次々に案が出てきて、状況によって柔軟に対応していたので、自分も明日は柔軟性を意識したい。」「クラフトをととして計画性と柔軟性の大切さを実感した。私に足りない部分だと思ったし、思い立ったらすぐ行動、ではなくちょっと考えてすぐ行動、を意識していきたい。」といった感想があった他、いろいろな意見をどうまとめるか、自分の意見ばかりを通そうとしないか、傾聴力と発信力、についての感想も多く見られた。



どんな雪像を作るか考えよう（2日目）

グループワークが続くプログラム構成だったため、話し合いの前に外に出て星空を眺める時間を作ってから研修室に戻り、3グループに分かれてどんな雪像を作るか話し合いをした。グループ毎に出た案を発表し、それを受けて再度全員で話し合い、最終的に全員で何を作るか決める計画だったが、全グループがかまくらを作りたいと考えていることがわかり、かまくらにどのような装飾をするかなどをグループで話し合い、全体でまとめることになった。しおりに雪像作りが記載されていたため、参加者同士で事前に話をしてしまったことが要因と考えられる。3グループで合意を形成させる目的のプログラムだったため、ややねらいどおりの展開にはならなかった。

雪像作り（3日目）

これまで登山以外は参加者を2, 3グループに分けて活動していたが、雪像作りは10人全員で1つのものを作るというグループワークにした。前日の話し合いで、最年少の参加者がリーダーで作業することになり、その学生はリーダーシップをとることの難しさを感じたようだった。1人1人が自分の役割を考え主体的に取り組むことができている、4年生にとっては、最後の卒業制作的な思いもあり、全員で1つのものを作り上げることに楽しみながら取り組むことができていた。雪が固まりにくく、計画どおりに行かない部分もあったが、柔軟に対応して全員が満足いく作品を作ることができた。



ふりかえりシート

イーハートーブチャレンジキャンプ ふりかえりシート

日にち	気力	0	50
名前	体力	0	50

精神的な疲労と肉体的な疲労度を知るため、気力と体力のバロメーターを確認した。気力・体力とも日が経つにつれ減少または維持が多かったが、2日目に気力がグンと上昇した参加者もいた。

○ 今日の自己評価 ← 低評価

・主体的に動けましたか？	(1 2 3 4 5)
・他の人への働きかけは？	(1 2 3 4 5)
・粘り強く取り組みましたか？	(1 2 3 4 5)
・課題や問題点を見つけられたか？	(1 2 3 4 5)
・計画的に動けましたか？	(1 2 3 4 5)
・様々な方法を考えられましたか？	(1 2 3 4 5)
・自分の意見を伝えられましたか？	(1 2 3 4 5)
・相手の意見を聞けましたか？	(1 2 3 4 5)
・物事に柔軟に対応できましたか？	(1 2 3 4 5)
・自分の役割を果たせましたか？	(1 2 3 4 5)
・ルールを守って行動できましたか？	(1 2 3 4 5)
・ストレスとうまく向き合えましたか？	(1 2 3 4 5)

上から、「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」をはかるための設問となっている。

○ 今日の（心に残った）出来事

○ 今日一番輝いていた人&その理由

他者と比較して自己を分析する設問として設定した。この質問から、その参加者が「どういう人にあこがれているのか」、や「大切にしている価値観」なども読み解くことができた。

○ 今日の自分

参加者が大学生だったため、たくさん書き込んでもらったが、「今日の自分（意識して取り組んだこと）」などもう少し具体的な質問にすべきだった。

○ 明日に向けて

参加者の声

- ・社会人基礎力調査で、自分のことについて目で見て分かったので、強さ弱さを改善したりできるように意識して過ごしながら社会人として成長していけたらと思いました。今回のキャンプで、その人によって得意なことであったり、やりたいことがあったり、適材適所だと思っていてもそうでないことがあったりということがあったので、人と共有することが大切だと思いました。いろんな人がいるから面白いし、それを受け止める人間性があればうまくやれると感じました。そのためには自分をよく知ることから始めよう。それが今回の事業でした。
- ・自分はみんなを引っ張っていくような役割よりも、自分にできる仕事を探して、フォローする役割の方が向いていると改めて感じました。でもリーダーシップをとる場面もそのうちあると思うので、計画する力や指示を出す力を今後身につけたいと思いました。仲の良い人には意見を伝えられますが、人の意見と自分の意見が異なる場合に、自分の意見が言えなくなったり、相手の意見をそのまま受け入れてしまったりしていました。今回の事業ではどの企画もととても楽しく、ずっと笑顔で過ごせたような気がして、自分の意見を伝えることも少しはできたかなと思います。
- ・最初にテストしたときに、計画性や主体的に動く力があまりなく、他の人と一緒に活動することで、自分にはやっぱり足りていないと感じることができました。同じような形の三角形の人と活動するよりも、違う三角形の人と活動した方がより面白かったと感じています。今回の企画は、自分に足りない部分を3日間意識して自分の中で挑戦することができたキャンプでした。

結 論

大学生にとって、自然体験活動は自身の社会人基礎力の成長に有効である。

成果の考察と課題

社会人基礎力調査は、自己を分析し、自分と他者を意識しながら客観的に自分を見つめることができ、参加者の成長に非常に有意義なものだった。

社会人基礎力で分析した自分の弱い部分を改善し、強い部分を伸ばしていくためのプログラムとして、自然体験活動は、参加者の心を動かす効果があり、達成感から主体性が向上し、自己肯定感の向上から行動力が上がるなど、社会人基礎力の向上に強く影響を与えることが分かった。

最終日の雪像作りは、寒さで固まりにくい雪質であったため、達成感や協調性の他にも忍耐力、ストレスコントロール力、計画性、柔軟性、実行力などの能力の向上に影響を与えることができたと考えられる。

グループワークではポスター作りや創作活動を行ったが、チームで行うことで、発信力と傾聴力、計画性と柔軟性など相反する項目についても意識することができ、どちらか1つが大切なのではなく、両方をバランス良く考えさせるプログラムとすることができた。

このように、自然体験活動をとおしたチームビルディングが社会人基礎力の向上に有効であると考えられるが、今後はより長期の自然体験活動や自然体験活動を好まない大学生を対象にした場合、どのような効果があるのかなど検証していきたいと考える。



自然体験



社会人基礎力